江戸時代の富山の科学者

石黒信由

正確な地図

今から約200年前、今の新湊市に測量と算学にすぐれた石黒信由(1760-1836)がいました。信由は1825年に当時の加賀藩（今の石川県と富山県の大部分）の地図を作製しました。これを現在の地図と比較したものが裏の図です。当時、伊能忠敬が全国の地図を作りましたが、それに比べても同じくらい正確な地図で、当時のわが国では最高水準の地図でした。

石黒信由と測量

信由は幼い時から算学に興味を持ち、23才の時、今の富山市にいた中田高寛に弟子入りしました。そして、才能を発揮し、ついに当時誰も融けなかった問題を解き、実力を示しました。信由はこの算学の知識を測量などに応用しました。信由は加賀藩から命じられて、領地の測量や用水を作るための測量などを行っていました。

1808年に金沢城で火災があり、絵図が焼けてしまいました。そこで、加賀藩は各地の地図を提出させましたが、信由の作った地図が非常に優秀だったので、藩は1819年に藩全体の地図を作ることを命じました。信由は3年半かかって測量を行い、1825年に地図を完成させました。

信由が正確な地図を描けたのは、第一に、測量器具に精密に測量ができるような工夫を行ったことがあげられます。例えば、測量器具を載せても必ず水平が保たれるように台を工夫したり、磁石を2個用い正確に方位を測定できるようにもしました。

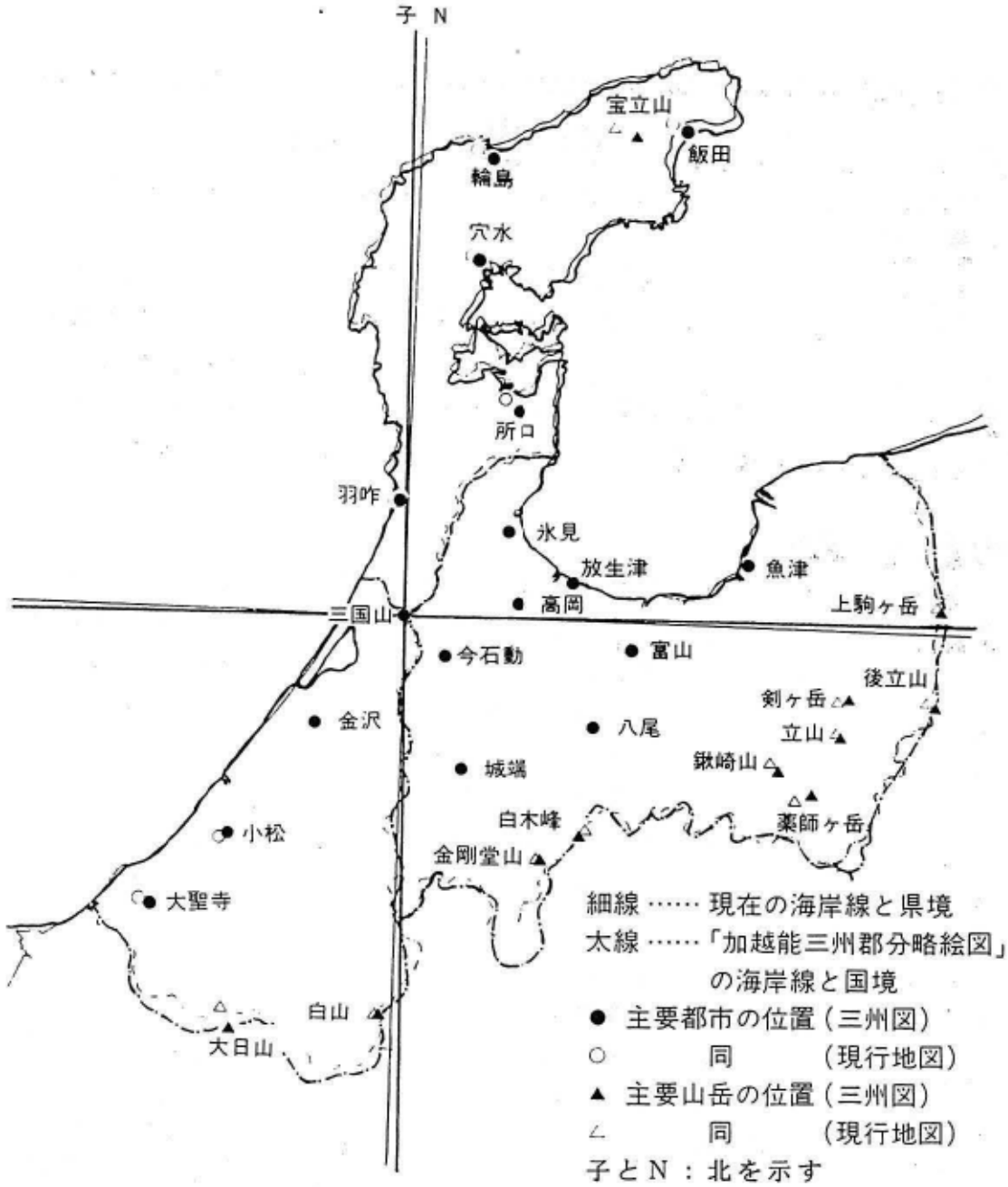
第二に、誤差が生じても大きな誤差にならないように測量する方法をとりました。

このような数々の工夫を積み重ねて、立派な地図が完成したのでした。

（渡辺誠）



石黒信由の絵



石黒信由作製加越能三州図における形・位置・方位のずれ
（新湊市教育委員会編：越中の偉人「石黒信由」（1985）より）

富山市科学文化センター
〒939 富山市西中野町１丁目８番３１号
電話 （０７６４）９１－２１２３（代表）